

秋田市大森山動物園情報誌

コミュニケーション

No. 96

2018.10月号

Contents

P2・3 園長あいさつ

〔特集1〕

アフリカゾウの繁殖に向けて

P4・5 〔特集2〕

繁殖に向けたさまざまな取組

P6・7 こんにちは! あかちゃん

移動動物／訃報／飼育動物数

P8・9 飼育レポート／動物病院から

P10・11 イベントレポート

今後のイベント

P12 飼育日誌／お客さまの声
かたばた通信

動物園の動物展示を続けていくために

園長 小松 守

動物園という場は、野生動物(動物園動物ということが多い)を飼育し、来園者に見ていただくこと(展示)で役割を果たしている場です。でも、動物にだって人間と同じように寿命があるし、病気もするし、永遠のいのちではありません。当たり前ですが、死んでいなくなればその動物の展示ができません。だから動物のいのちをつなぎ続けることを動物園では大事な仕事の一つにしているのです。大げさに言うならば種保存ともいいますが、基本は展示を続け、動物園が社会的な役割を果たすためのものです。動物園のことなどを本にしている作家の川端裕人さんは、ずっと以前の動物園の会議で種保存を動物園であるための当たり前の仕事、「所作」とも表現したことを思い出します。

当園も全国、時に世界の動物園の協力を得て、アムールトラやユキヒョウなど様々な動物の導入や繁殖を実現でき、動物園の展示を続けることができています。今年にはアフリカゾウを飼育する東北三園が協力し、繁殖を

めざすためメス同士の交換を予定していますし、大学の力を借りてチンパンジー・ボンタの精子保存の取り組みを進めたりもしています。

様々ないのちをつなぐ努力は、各地の動物園で行われ知見や経験値になっています。そうした取り組みや知見、経験値の集積は、やがて野生にすむ動物たちが危機に陥ったとき、本来の意味の種保存にも生かされるに違いありません。展示を続ける努力は動物園の基礎であり、未来の動物園のためにも欠かせません。



ユキヒョウ



チンパンジー

特集1

アフリカゾウの繁殖に向けて

園長補佐 三浦 匡哉

アフリカゾウのだいすけと花子が市制100周年事業で秋田に来てから今年で28年です(写真1)。2頭の仲は良く、これまで交尾が何度も確認されていますが、数年前から花子の排卵が止まってしまう繁殖が難しくなっています。一方、国内の動物園でもアフリカゾウは近年繁殖が見られず、飼育展示の将来は危機的な状況にあります。

このような中、距離的にも近い東北三市の動物園がそれぞれ繁殖適齢の雌雄を飼育していることから、ペアの環境を変えることなどを通じ、繁殖へ結びつける取組を昨年度から検討してきました。

ゾウを移動して繁殖に取り組む事例は全国的にも見られますが、今回のように地域の三つの動物園が相互に連携し、ゾウの交換により繁殖に取り組むことは国内で初めての試みです。

昨年6月下旬、仙台市八木山動物公園と盛岡市動物公園、秋田市大森山動物園の各園長と飼育員、公益社団法人日本動物園水族館協会のアフリカゾウ計画管理者(当時)が一堂に会しました。

まず、国内のアフリカゾウの現状について計画管理者から説明があり、各園のゾウ担当がそれぞれのゾウの現状について報告した後、検討会を行いました。仙台のベンとリリー、盛岡のたろう、秋田のだいすけと花子は、いずれも1990年代始めに来園し、年齢もほぼ同じで、花子だけでなく、リリーも排卵が止まっています。

これは幼い頃からペアで過ごしてきたことも理由のひとつと考えられるため、繁殖相手を含め環境を変えることで、この状況を打開したいと考えました。

また、ゾウも人と同じで、年を取ってからでは妊娠しづらくなったり、難産になる可能性が高くなります。タイムリミットが近づいているのです。第1回目の打合せでは、必ずしも繁殖につながる保証はないものの、現状を打破するために、三園でペアの組替えを一定期間行うことで、繁殖の可能性を探っていこうということでまとまりました。

その後、担当レベルで2回の検討会を行い、三園でゾウの情報を共有し、繁殖に取り組む具体的な方法を検討していきました(写真2)。

今年の5月末には、仙台と秋田の間でメスを移動させることが決まり、6月11日に開催した合同発表会で三市が協力し相互に繁殖に取り組む覚書を取り交わしたことを公表しました(写真3)。

8月19日には、高木美保名誉園長や来園者も参加し「花子を送る会」を開催しました(写真4)。花子の移動は9月下旬を予定しています。この冊子を皆さんがご覧になるときは、無事にゾウの移動が終わり、花子が仙台で元気に暮らしていることを期待しています。移動の詳しい内容や仙台での花子の生活などについては、次号のコミュニケーションで報告したいと思います。



写真1 だいすけ(右)と花子



写真2 大森山動物園でのゾウ移動会議(5月23日)



写真3 三園による合同発表会(6月11日)



写真4 花子を送る会(8月19日)

花子を送り出す心境

飼育展示担当 山上 昇

6月20日、アフリカゾウの花子を移動するための輸送箱が動物園に到着し、同月22日から花子を輸送箱に入れるための「箱取り馴致訓練」(以下、訓練。)が始まりました。当園では初めての経験です。

訓練では、花子を怖がらせないこと、ゾウ担当は慌てないことが重要で、お互いの信頼関係が何より大切です。花子は好奇心旺盛で、何事にもチャレンジする積極的な性格ですが、私たちは狭い鉄の箱に入ってくれるか心配な毎日でした。

そんな心配をよそに、花子は物おじせず果敢にチャレンジし、訓練開始4日目には箱の中に入りました。驚きとうれしさが入り交じり、とても不思議な感覚でした。

しかし、順調だった訓練も途中で花子が警戒し始めたり、担当が音を立てて驚かせ

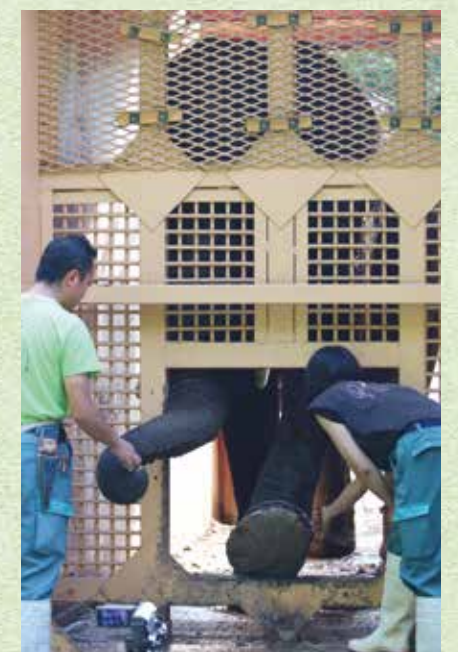
てしまったり、予想していなかった出来事がありました。試行錯誤を重ねて9月中には無事に仙台へ花子を届けたいです。

長年、花子を見守り続けた担当者として、とにかく花子には「赤ちゃんを産んでほしい」「母になってほしい」の一心です。

花子は体も丈夫で人なつっこいゾウなので、きっと仙台に行っても新しいパートナーと上手くやってくれると思います。



ゾウの輸送箱



箱取り馴致訓練

繁殖に向けたさまざまな取り組みについて

大森山動物園では毎年いろいろな動物に赤ちゃんが産まれます。しかし、ペアの相性が良くても、なかなか子孫を残せない動物もいます。自然に繁殖できるように環境を整えたり、栄養面を考えて飼料を調整したりしますが、何らかの原因で妊娠することが難しい場合は人間がお手伝いをすることもあります。希少動物を将来にわたって展示し続けるために、人工授精などの技術も必要になってきます。

今回、なかなか赤ちゃんが産まれないチンパンジーとキリンで、飼育員と獣医師が協力して行っている人工的な繁殖の取り組みについてご紹介します。

チンパンジーの繁殖に向けた長期的な取り組み

飼育展示担当 鈴木 昌典

大森山動物園では、現在5頭(オス3頭メス2頭)のチンパンジーを飼育しています。そのうち、子孫をまだ1頭しか残していない野生由来のボンタ(オス46歳)は、国内で飼育されているチンパンジーの遺伝的な多様性を維持する上で、重要な存在といえます。

また、昨年、横浜市立野毛山動物園から来たルイ(メス7歳)も同様に重要な個体です。

本来であれば、ボンタとルイをペアにして繁殖に取り組みたいところですが、2頭の年齢差が離れすぎていることと、ボンタはジェーン(メス51歳)以外のチンパンジーとペアになったことがないことが、ペアにする上での問題になっています。

そこで飼育員と獣医師が相談し、ボンタの精液を採取してルイに人工授精することで子孫を残すことを考えました。人工授精に向けたルイのトレーニングはチンパンジー担当が進め、採取したボンタの精液を保存する方法は獣医師が進めることにしました。

麻酔をかけずにボンタから精液を採取するには、道具を使う必要がありますが、道具を使ったトレーニングには時間も技術



ボンタ

も必要で、頭を悩ませていたところ、獣医師からの情報で、床に落ちている精液でも大丈夫だということが分かりました。ボンタは自分で射精することがあるので、これまでに数回精液を採取することができました。

一方、ルイのトレーニングはお尻を飼育員に見せることから始まり、最終的な目標は、麻酔を掛けずに子宮頸管深部に精液を注入することです。現在の状況は、ルイがお尻を出して、飼育員が檻越しに触れる所まではできていますが、陰部に指などを入れると、怒り出して離れてしまう状況です。

この人工授精に向けたトレーニングは、この先ずっと続いていく長期的な取り組みですが、飼育員とルイとの信頼関係が大切になるため、一歩、一歩地道に進めて行きます。



ルイ

種保存を目的とした精液保存の取り組みについて

獣医師 小川 裕子

当園のチンパンジー・ボンタの遺伝子を残す事は、当園だけでなく将来のチンパンジーの血統管理にも極めて意義深い事です。

また、チンパンジー以外にも絶滅危惧種であるキリンの繁殖は飼育員、獣医師の長年の目標です。

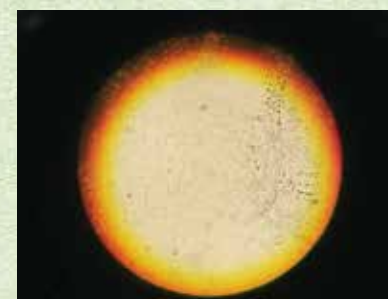
妊娠には精子と卵子が必要ですが、人工授精を行うには卵子を採取するよりも精液の採取がより簡単のため、第一歩として精液の採取保存を選択しました。

以前、牛の採精方法および凍結精液の作成方法を学ぶため、秋田県畜産試験場を見学した際には、雄の黒毛和牛の迫力に驚きました。個体ごとに採取した精液の性状検査を行い、凍結精液を作ります。非常に繊細な作業です。作製した凍結精液は半永久的に保存可能で、40年前の凍結精液で産子が誕生しているそうです。

しかし、液体窒素での凍結精液保存は、液体窒素およびボン

タが必要で、動物園で新たに購入することは予算的に難しく頭を悩ませていたところ、園長の協力により、精液をフリーズドライ処理し保存する技術を持つ岩手大学と共同研究することになりました。

当園での精液保存の研究はまだ始まったばかりですが、少しずつ前進しています。作製した保存精液を使用し、メスのチンパンジー・ルイへ人工授精する日は年齢的にはまだ数年先ですが、無麻酔下で人工授精するため、飼育担当と獣医が連携しルイのトレーニングを進めていきます。



ボンタの精子

キリンの繁殖に向けた取り組みについて

飼育展示担当 柴田 典弘

大森山動物園では2頭のキリン(メスのリンリン13歳、オスのカンタ8歳)を飼育しています。2頭は2012年からペアとなりましたが、現在までのところ繁殖に至っていません。

そこで、当園が有するハズバンドリートレーニング技術を応用し、採精や人工授精等も同時に模索すべきと考え、まずはオスのカンタの採精トレーニングを本格的に開始しました。肛門から直腸内に手を挿入し前立腺等を刺激する手法です。これは無麻酔で行うため安全性の担保が重要となりますが、手を挿入し軽い刺激を加え続けても不動化した状態で10分以上維持することが容易になる等、トレーニング自体は順調に進んでいます。

また、数分の刺激でカウパー腺液の採取が可能となる等、採精成功への期待も高まっています。今後は30分以上必要とされている継続刺激への対応を検討しつつ、あらたな手法の開発も視野に入れてキリンにおける人工での採精技術確立を目指します。また、人工授精に向けた取り組みも開始

する予定です。トレーニング目線で考えるとオスの採精より高い技術が求められますが、決してあきらめずに繁殖への可能性を追求し続けます。



採精トレーニングの様子

こんにちは！ あかちゃん

1月から7月の間に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



6月29日に三つ子が誕生しました。残念ながら1頭は亡くなってしまいましたが、2頭は家族みんなで子育てしています。(8ページで紹介)



7月12日、「ゆり」が赤ちゃん2頭を出産しました。大森山動物園では2年ぶりとなる繁殖です。2頭への授乳も確認され一安心。今後も元気に育ってくれるよう見守っていきたいと思います。(8ページで紹介)



今年も5月中旬頃より繁殖行動が見られ、7月中旬よりかわいいヒナ3羽が誕生しました。成長していく様子を間近で観察できます。(9ページで紹介)



今年も4月15日に今期1頭目が誕生し、全16頭の出産がありました。現在、14頭が母親に守られながらすくすく育っています。



6月に2組のペアから4羽がふ化し、元気に育っています。幼い頃は、親鳥とは異なり、全身灰色の綿羽毛で覆われています。(9ページで紹介)

飼育動物数 2018年6月末現在		
哺乳類	53種類	371点
鳥類	25種類	152点
爬虫類	12種類	25点
両生類	1種類	1点
魚類	3種類	36点
無脊椎	1種類	23点
合計	95種類	608点

よろしくね！ 仲間入りした動物たち



3月31日に旭山動物園からオスの「リヒト」2歳が来園しました。大森山動物園では8年ぶりとなるユキヒョウの飼育です。今後、メスの導入を検討し世界的に希少な種の命をつなぐとともに、かわいい子どもの展示ができればと思います。

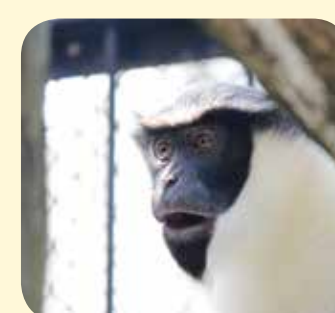
6月21日に千葉市動物公園よりオス「ルイ」とメス「コマチ」が来園しました。新たに2頭が加わったことで、トナカイは現在、6頭(オス4頭、メス2頭)になりました。

今後の導入予定
アビシニアコロブス、ニホンコウノトリ、シマフクロウ

元気でね！ 大森山を後にした動物たち



2000年にカナダで生まれ、2011年から大森山動物園にいるピューマのピュー子(ピュー子)が、7月11日、盛岡市動物公園へ引っ越ししました。7月8日には「ピュー子を送る会」を開催し肉のケーキをごちそうしました。盛岡でも元気でね！



ダイアナモンキーのミミーが6月22日、福岡市動物園へ引っ越ししました。大森山では1頭だけでしたが、福岡には4頭の仲間がいるので、早く仲良くなってにぎやかに暮らしてほしいです。

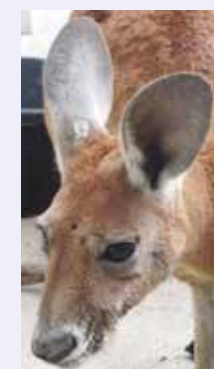
その他 ミーアキャットが群馬サファリパークといしかわ動物園へ、レッサーパンダが群馬サファリパークへそれぞれ繁殖等を目的に旅立ちました。

訃報 忘れないよ...



シロフクロウ
ハク(7月10日死亡)

ハクは2015年7月に大森山動物園で生まれました。お客様とのふれあいや記念撮影では、その美しい姿と愛嬌のある仕草で多くの方に愛されていました。



アカカンガルー
リゾット(6月18日死亡)

リゾットは2014年12月に大森山動物園で生まれました。オスでは小柄な体格でしたが、飼育員にもたいへん人なつこく温厚な性格でした。4月よりカンガルー特有の症状が見られるようになり、定期的な治療や静養できる環境で見守っていましたが、完治することなく亡くなってしまいました。

飼育レポート

さるっこの森の赤ちゃんたち

飼育展示担当 舘岡 幸枝

2018年6月29日、コモンマーモセットの赤ちゃんが産まれました。マーモセットは2頭出産することがほとんどなのですが、当園の「もも」は毎回3頭を出産します。マーモセットの乳首は人間と同じ2つなので、3頭に平等にお乳を与えることは非常に難しく、生後10日目には1頭が衰弱。人工哺乳するも残念ながら亡くなってしまいました。残った2頭は順調に育ち、現在は親から離れて活発に動き回っています。



コモンマーモセットの赤ちゃん(7月28日)

また、7月26日にはボリビアリスザルの赤ちゃんが産まれています。お母さんの「すず」は何度か出産を経験していますが、昨年は出産直前に不正出血が見られ、死産となってしまったのです。今年も徐々にお腹が大きくなるすずを横目に、無事に出産できるかとても心配でした。エサや温度、運動量などに気を遣いながら今か今かと待ち望んでいたある日の朝、すずの背中にちょこんと赤ちゃんの姿が。小さくも力強いその姿にほっと胸をなで下ろしました。まだまだ赤ちゃんたちにとっては厳しい暑さが続きますが、無事に育ってくれるよう今後も手助けをしていきたいと思っています。



リスザルの親子(8月8日)

ゆりが2回目の出産

飼育展示担当 関谷 藍子



生まれて8日後の様子(7月20日)

7月12日に、レッサーパンダの「ケンシン」と「ゆり」の間に、双子の赤ちゃんが誕生しました。ゆりにとって2年ぶり、2回目の出産です。

5月頃から、ゆりの寢室に産箱や産箱内の様子が観察できるカメラを設置し、エサや巣材となる笹の増量など、出産に向けた準備を進めていきました。6月に入ると、ゆりのお腹のふくらみがかなり目立ってきましたが、7月に入っても特に大きな変化はありませんでした。

しかし、7月12日の昼前から急に産箱内に多量の笹を運び込み、今までになくそわそわした様子になってきました。「いよいよかも…」と、動物園事務所でモニターを観察していたところ、その日の夜19時前からいきみ始め、5分後には1頭目、20分後には2頭目を出

産しました。出産直後から夢中で仔の体をなめながら授乳するゆりの姿に母の愛情を感じ、胸が熱くなりました。

出産後は多少神経質になる母親もいるのですが、ゆりは2度目ということもあるのか、出産前と全く変わらない落ち着いた様子で子育てに励んでいます。子どもたちもお乳をよく飲み、ぐんぐん成長しています。最近では産箱内を活発に動き回り、時々外に這い出ようとして、ゆりに連れ戻される様子も見られます。8月上旬に行った初めての健康診断で、2頭ともオスと判明しました。子ども達の公開は今年10月頃を予定しています。ぜひ会いに来て下さい。



性別チェック(8月2日)

暑さをのり越え繁殖

飼育展示担当 佐々木 祐紀

今年も当園ではシロフクロウがふ化、育成しています。2014年から1組のペアが産卵、ふ化し無事に育成しはじめました。翌年からは新しいペアも加わり、2組のペアでの繁殖となりました。毎年、多くのヒナが育ち、他の動物園を新たな生活の場所として当園から移動しています。

シロフクロウの野生での生息地は気温が低い北極圏で、病原体も少ない環境ですが、日本の夏場の暑さは、シロフクロウにとっては体調を崩しやすく、色々な病気にかかりやすい環境です。当園では5月中旬に産卵し、梅雨のジメジメとした頃からヒナがふ化しはじめ、暑さの真っ最中に子育てが続きます。

繁殖はシロフクロウにとって大きな負担になります。展示場には日除けを設けたり、キーパー通路から管を通して卵を抱えているメスの付近へ送風したりするなど、いくらかでも親の負担を軽減する対策をとりました。それでも限界があり、梅雨時期に多くのヒナがふ化することから、エサやヒナの糞などで巣はあつという間に不衛生になってしまいます。しかし、ヒナが親に抱かれている間は掃除を行うために近づくことはできません。そのような状況から全てのヒナが育成することは難しい年もありました。

今年も暑さが厳しいですが2組のペアから4羽が無事に親と同じ大きさまで成長しました。残りの暑さを無事に乗り切ることができるようサポートしていきたいと思っています。



ヒナ(7月14日)



ヒナ(8月21日)

繁殖復活から7年目

飼育展示担当 櫻庭 美千代

今年も順調にチリーフラミンゴ1羽、ヨーロッパフラミンゴ2羽、計3羽のヒナが7月に元気にふ化しました。ヒナたちの羽は灰色で、親の羽根色からは想像のつかない容姿をしています。1週間ほどで巣立ちをし、最近では親のくちばしから真っ赤なフラミンゴミルクをもらいながら、エサのフードも少しずついばむようになってきました。タイミングが良ければ、まなタイムの直前にミルクを飲んでいることもあります。

一時途絶えていた繁殖を復活して今年で7年目になります。夏になればその年にふ化したフラミンゴのヒナと昨年にふ化した灰色の幼鳥たちを同時に見ることができるのですが、じわじわとお客様にも浸透してきました。今年は産卵が例年よりやや遅く、少し心配でしたが、何組かのペアが産卵をして抱卵を始めると、お客様から「いつ頃ふ化しますか?」「親の羽下に抱かれてミルクを飲んでいる姿が見たい!」など昨年より多くの声を聞くことができました。

フラミンゴ舎前を通るときは、いつもより少し気にして覗いてみてください。もしかしたらヒナがミルクを飲んでいるかわいらしい姿に出会えるかもしれません。



チリーフラミンゴのヒナ(7月16日)



ヨーロッパフラミンゴのヒナ(7月31日)

動物病院から

新人獣医師として

獣医師 湯澤 菜穂子

この春より大森山動物園に配属となりました。大学卒業後、大森山動物園が初めての勤務先のため、獣医師としての能力はまだ十分ではありません。他の



獣医師による治療を見学したり、獣医師や各動物の担当者から様々な話を聞いたりしては新たに知ることばかりで、勉強の日々です。

動物園にいる動物とペットとしての動物で大きく異なる点は、動物園の動物は調子が悪いことを隠そうとする、という

ことです。野生の動物は、調子が悪そうな素振りを見せては天敵に狙われてしまうのです。私が担当しているニホンリスが亡くなった際も、腎臓が正常の数倍の大きさになるような腫瘍を抱えながらも、当日の朝まで普段通りエサを食べていました。足に大量の膿が溜まっていたラマも、特に痛がる様子を見せずにいつも通り歩き回っていました。

動物たちの健康を守るためには、日々動物たちの様子をよく観察し、わずかな変化も見逃さないようにすることが大切ですが、異常が見られてからはまさに時間との勝負で、迅速に適切な治療を行わなければならない、ということを実感しています。

少しでも早くこれらのことを実践できる獣医師になれるよう精進したいと思います。



▶ 通常開園スタート

3月17日(土)

今シーズンの通常開園がスタート。大勢のお客様が来園した開園日のセレモニーには穂積市長や高木名誉園長が参加しました。ネーミングライツ・パートナーの秋田銀行からは新谷頭取が出席し、



開園日にお菓子のプレゼント



トークイベント

来園者へお菓子のプレゼントもいただきました。当日は、高木名誉園長と飼育員によるトークイベントも行われ、楽しいお話しに加え、途中で動物たちも登場するなど大いに盛り上がりました。

▶ 飼育の日イベント

4月19日(木)～22日(日)



動物園裏側探検

育員によるキーパーズトークでは「飼育における最善とは」と題し、キリン担当者とアシカ担当者が、アニマルトレーニングなどについて熱く対談しました。



キーパーズトーク

今年も4月19日の飼育の日に合わせてイベントを開催しました。動物園裏側探検では、来園者を動物のエサを作る調理室やゾウ・キリンなどの寝室に案内し、エサやり体験などを行いました。22日に開催した飼

▶ スダックスの共同栽培

5月15日(火)～7月6日(金)

飼料作物スダックスの共同栽培は今年で20年目になります。今年も浜田小学校3年生9名、栗田支援学校小学部3年生10名が堆肥すきや播種、収穫に挑戦しました。

7月6日の収穫では、児童たちは慣れない草刈り鎌で恐る恐る刈り始めましたが、時間とともに上手になり、気がつけば運搬用の一輪車はいっぱいになっていました。それをみんなでゾウ舎へ

運び、アフリカゾウのだいすけに食べさせました。児童たちは、怖がることもなく上手に給餌体験を終え、満面の笑みを浮かべていました。



スダックスの収穫



ゾウへの給餌

▶ 春の動物ふれあいフェスティバル

6月3日(日)



動物パレード

ンジーのご飯の計量や、作業着や無線、長靴など飼育員セットを身につけての写真撮影など、皆さん憧れの飼育員になりきって楽しんでいただきました。



飼育員になりきり体験

恒例となった春の動物ふれあいフェスティバルは、毎回大好評の「動物パレード」や、新イベント「飼育員になりきり体験」などを行いました。飼育員になりきり体験では、ゾウやチンパ

▶ 新屋鹿嶋祭りin移動動物園

6月10日(日)

新屋鹿嶋祭りは地元の子どもたちが主役のお祭です。重い舟を引っ張りながら町内を練り歩き、少し疲れた様子の子どもたちも移動動物園ののぼり旗を見つけるとうれしさを小走りに。会場は昨年度オープンした新屋ガラス工房のため、動物園のスタッフは勝手が分からず少し準備に手間取ったものの、527人の参加者の笑顔に触れることができました。撤収作業を終え、実行委員会の方からいただいた冷たい湧き水カルピスは格別でした。



移動動物園で動物とのふれあい

▶ 第41回親と子のふれあい写生大会

7月21日(土)・22日(日)



秋田市長賞「孤高」 山田優衣さん



秋田市議会議長賞「草、おいしいー!」 守田周さん



秋田市教育長賞「家族でダンスパーティー」 池田絢音さん



オモリントロフィー

2日間とも晴天の下、たくさんの方にご参加いただきました。提出された473点から、秋田市造形教育研究会による審査で計108点の作品が入賞し、受賞者には8月19日(日)の表彰式で賞状と副賞が贈呈されました。秋田市長賞など上位3作品に贈呈されたオモリントロフィーは、新屋ガラス工房の協力で制作されたものです。

▶ 第44回サマースクール

7月24日(火)・31日(火)

今年は小学校1～6年の各学年で班を作り、午前中は飼育作業、午後は低学年が動物ストラップの工作、高学年は動物ガイドに挑戦しました。工作で使うトナカイの角やフラミンゴの羽を迷いながら選ぶ1年



飼育体験



動物ガイド

生の女の子や、初対面でもすぐに仲良しになり楽しそうにおしゃべりする2年生の男の子。真剣にガイドの作文を考え、緊張しつつもガイドに取り組んだ5年生の男の子や、イベントが終わった後も色々飼育員に質問する6年生の女の子など、2日間で参加した33人全員が「秋田最強の飼育員」をめざし、汗をかいた1日でした。

▶ 夜の動物園

8月11日(土)～15日(水)



夜の動物園

8月11日から15日までの5日間、夜の動物園を開催しました。天候が心配される日もありましたが、約1万5千人のお客様にお越しいただきました。

期間中には、大人気のミルヴェンジャー7ショーや鳥

との撮影会などの特別イベントのほか、この夏の異常な暑さに、日中はバテている動物や夜行性の動物たちが、夜には活発に活動している様子をお楽しみいただけたかと思います。



鳥との撮影会

今後のイベント

さよなら感謝祭

12月2日(日)

通常開園最後の日曜日の12月2日に、動物の慰霊とお客様への感謝の気持ちを込めて、「さよなら感謝祭」を開催します。当日は、通常入園料大人720円のところ520円で入園できます。(他の割引との併用はできません。)

雪の動物園

2019年1月5日(土)～2月24日(日)の土日祝日に開園

冬景色となった動物園とその中で過ごす動物たちをご覧ください。



飼育回誌



1/4	アムールトラ	カサンドラ♀、展示場での遠吠え頻繁、発情初期兆候と思われる。
1/4	ニホンイヌワシ	風斗♂、西目♀を保全棟へ移動するため捕獲し、採血、爪切り、健康チェック、体重測定実施。体重：風斗♂3.74kg、西目♀5.84kg
1/6	コツメカワウソ	交尾行動を確認する。
1/7	アムールトラ	同居初日。
1/10	ニホンイヌワシ	風斗♂×西目♀の交尾行動及び巣作り行動を確認する。
1/14	アカカンガルー	フレンドール♀、分娩確認する。
1/14	ニホンイヌワシ	風斗♂×西目♀、交尾行動を確認する。
1/14	レッサーパンダ	ケンシン♂とゆり♀、網越しにお見合い実施する。
1/15	アムールトラ	カサンドラ♀、発情終了に伴い本日同居なし（同居期間：1/7～1/14の8日間）。
1/19	シンリンオオカミ	ジュディー♀、発情出血確認。本日で出血始まってから10日目、交尾行動はなし。
1/19	フンボルトペンギン	緑白、2卵目の産卵を確認する。
1/23	ニホンイヌワシ	風斗♂×西目♀、交尾行動を確認する。
1/27	レッサーパンダ	ナナ♀、朝一起立できず、動物病院へ入院。夜間もそのまま管理。
2/2	タンチョウ	つるべ♂、死亡。
2/4	シンリンオオカミ	シン♂×ジュディー♀、交尾確認する。1日目。
2/5	コツメカワウソ	わらび♀、流産。
2/7	シンリンオオカミ	シン♂×ジュディー♀、交尾4日目、完全交尾1回確認 最終交尾日とする。
2/9	レッサーパンダ	ナナ♀、朝に死亡を確認する。
2/10	プレーリードッグ	繁殖のための同居を行う。
2/12	ニホンイヌワシ	西目♀、第1卵目の産卵を確認。
2/16	ツキノワグマ	冬ごもりの2頭の呼吸確認。
2/17	プレーリードッグ	もっと♀、死亡。
2/18	トナカイ	サクラ♀、死亡（12歳）。
2/19	チンパンジー	コタロウ♂×ルイ♀、室内での見合い開始。
2/21	タンチョウ	鶴太郎♂×お市♀、交尾行動を確認。
2/22	チョウゲンボウ	♀1、死亡。
2/23	アムールトラ	カサンドラ♀の室内に産箱設置する。
3/6	レッサーパンダ	ケンシン♂×ゆり♀、交尾行動確認。
3/7	シバヤギ	3頭（性別♂2♀1）の出産を確認する。
3/8	ミーアキャット	♂1、群馬サファリパークへ搬出。
3/8	レッサーパンダ	ケンタ♂、群馬サファリパークへ搬出。
3/9	ワオキツネザル	性別不明1頭出生確認。
3/13	チンパンジー	コタロウ♂とJ太郎♂の同居実施。
3/15	ニホンイヌワシ	西目♀が興奮し風斗♂へ時折飛びかかる。その影響で♂が若干萎縮し、♀の代わりに抱卵しようとしなくなる。
3/16	アフリカゾウ	花子♀、両前肢に係留チェーンを装着する練習する。
3/16	トナカイ	元気♂、左角落角。
3/21	ケヅメリクガメ	黄3、直径4センチ大の結石を排泄、腹部レントゲン撮影実施。

3/25	アフリカゾウ	だいきゅみ、体調不良、以後経過観察。
3/27	ミーアキャット	搬出♀1頭いしかわ動物園にBLで貸出。
3/29	コツメカワウソ	交尾行動確認する。
3/31	ユキヒョウ	リヒト♂、旭山動物園より搬入。
4/3	チンパンジー	ルイ♀、2回目外展示場訓練時、興奮状態となり水モートへ転落する。その後蘇生。
4/9	アフリカゾウ	花子♀、移動用通路への馴致を開始する。
4/13	シバヤギ	シン♀、♂1頭出産。
4/14	シバヤギ	ギン♀、X線検査・帝王切開を行う。
4/18	ユキヒョウ	リヒト♂、屋外展示の訓練を開始する。
4/21	アフリカゾウ	花子♀、体長・体高測定実施（体高240cm、体長340cm）。
4/22	ユキヒョウ	リヒト♂、一般公開開始。
4/28	トナカイ	雁来♀、春来（はるき）♂1頭出産。授乳確認する。
5/3	シロフクロウ	チップ♀、第1卵目産卵。
5/7	アムールトラ	カサンドラ♀、妊娠・出産なしと判断し、通常の展示を再開。
5/8	マーコール	川崎市夢見ヶ崎動物公園から♀1頭搬入。
5/15	シンリンオオカミ	ジュディー♀、病理診断結果、良性脂肪腫と判明。
5/22	ゼニタナゴ保全池	ゼニタナゴの稚魚29尾確認。シナイモツゴ保全池、瓦に産卵あり約50個。
5/22	シロフクロウ	ピンク♀、第1卵目の産卵確認。
5/25	ツキノワグマ	♂♀の同居を開始。
5/26	シロフクロウ	チップ♀、産卵数7個、抱卵行動は順調。
5/26	シロフクロウ	ピンク♀、抱卵数2個、抱卵行動は順調。
6/1	レッサーパンダ	ゆり♀、本日から出産準備のため、完全室内飼育（非展示）。
6/5	ニホンイヌワシ	雛巣立ち確認（69日齢）。
6/6	クロヅル	♀1羽死亡。
6/11	ライオン	トモ♀×ロアー♂の同居、トモ♀の発情に伴い午後から同居させる。
6/12	シロフクロウ	ムース♂×チップ♀、3羽目ふ化。
6/13	シロフクロウ	ムース♂×チップ♀、4羽目ふ化。
6/14	ニホンリス	♂2♀2搬入（井の頭自然文化園より）。
6/18	アカカンガルー	リゾット♂、死亡。
6/20	アフリカゾウ	輸送箱金沢動物園より到着、ゾウ舎へ設置する。ゾウ2頭とも驚いていた。
6/22	ダイアナモンキー	♀1、福岡市動物園へ搬出。
6/24	インドクジャク	孵卵器の卵、6卵中4個が有精卵と確認。
6/25	チンパンジー	コタロウ♂×ルイ♀の室内展示場での同居訓練初日。
6/29	コモンマーモセット	もも♀、性別不明3頭出産（内1頭7/9死亡）。
7/3	アフリカゾウ	花子♀、輸送箱に怖がって入らず。
7/7	チンパンジー	コタロウ♂×ルイ♀、同居訓練、♂が♀の左肩甲骨付近に噛みつき行動あり。
7/8	ピューマ	ピューマを送る会開催。
7/10	シロフクロウ	ハク♂、死亡。
7/11	ピューマ	ピューマ♀、盛岡市動物公園に搬出。
7/12	レッサーパンダ	ゆり♀、性別不明2頭出産。日中、頻繁に産箱の出入り、巣材の運び込みあり。夕方、しきりに陰部を舐める。
7/13	インドクジャク	性別不明4羽ふ化（孵卵器）。
7/16	チリーフラミンゴ	Aベ♂（桃橙×♀赤）ふ化確認。
7/19	インドクジャク	1羽ふ化（自然ふ化）。
7/20	ヨーロッパフラミンゴ	Cベ♂、Dベ♂、性別不明各1羽ふ化。
7/26	ボリビアリスザル	すず♀、性別不明1頭出産。

お客さまの声

- 1/21 小さな頃から何度も来ている動物園ですが、大人になったらますます来ることが増えました。今では私が親やおばあちゃんを車に乗せてきています。仕事でいやなことがあったとき、自分へのごほうび、リフレッシュしたいとき、動物たちをみていると「またがんばるぞ!」と思えます。
- 2/17 小さいながらたくさんふが感じられる動物園で、価格も安いのでよく来ています。雪の動物園も楽しかったです! ありがとうございます! また来ます!!
- 3/17 通常開園を楽しみにしていました。アプリもダウンロードしました。地図がすぐ見れて、便利です。
- 4/22 飼育の日のイベントに関心があって札幌から来ました。4月22日(日)のキーパーズトークです。とても濃い内容のお話しでした。プロを目指す方にも聞いて頂きたいです。次の開催も希望します。

- 4/28 チンパンジーのジェーン♀はずっと毛布をかぶり、咳とくしゃみが多かったです。風邪を引いているのではないかと心配してくださるお客様から声をかけていただきました。
- 5/26 10年振りに来園しました。新しい施設建物、休憩所、展示エリアがあって予想以上に楽しませてくれました。入園料安すぎて驚きです。子供づれで楽しめすね。とてもステキな動物園になっていて感動しました。
- 6/6 とても好きです。ここで働く全ての人に感謝いたします!! インスタ見ます
- 6/16 象に水をかけられた恐怖。幼少期は象を憎んでおりましたが、先日、八木山動物園との象交換のニュースをみて、自分も親となり子供ともう一度動物園に通うようになった現在は、子供の誕生を期待せずにはいられません。うちの子は象さんが一番のお気に入りの様です。象さんががんばれ!
- 6/26 夕方、新世界サル舎のマーモセット室内側に30～40代ご夫婦より「おまめの眼の腫れが無くなって良かったですね!!」と声をかけて頂きました。
- 7/16 エサやり体験など、動物と近くふれ合えることが出来て楽しかったです。子供もまた来たいと言っています。

かたばた通信

新屋にホタルの住める環境をつくり、自然環境の保全を目指す「あらやホタルの会」が今年、発足しました。地域住民で構成されるこの会に参加することになり、現在、ホタルの飼育を動物園でできないか模索中です。

先日は、動物園の周辺にホタルがいるか調べに行きました。ですが真つ暗闇の中、いたのは大量の蚊で肝心のホタルは数匹程度でした。残念な結果ですが、将来的には飼育繁殖ができるよう頑張っていきたいと思います。

(川本)

